

先生も色々体験されたいらしい。テントをクマに襲われたことや、クマと7・8m手前でばったり会ったことなどクマ談義が始まり、みんな耳を傾ける。本にも書いてあったがヒグマに会ったときのために輸入品だが、北海道だけで売っているクマよけスプレーが1本1万円ださうだ。それも目前2m近くでスプレーしないとあまり効き目がない。スプレーでクマは5・6分気を失うらしい。先生もそのスプレーを持っておられた。テントで寝ているときに襲われた時の為だそうだ。

山小屋は8時消灯。眠りに就くがなかなか眠れない。さっきのコーヒーが効いたのか、それとも写真家やあす完登する方々にお会いできたのがうれしいのか、多分その両方だろう。

朝3時、早立ちの人達が準備を始める。先生達は6時出発。私は5時頃にとっていた。2階には5・6人が残った。私も起き朝食を済ませ準備をする。縦走路として戸蔭別(とつたべつ)岳を回るコースもあるが、下りは山荘まで30分くらい徒渉しなければならない。徒渉はもうたくさんだ。必要ない物は山荘に残し、4時30分登山開始。北海道の夜明けは早い。山頂まで4時間10分。樹林の中の急斜面を登る。沢の瀬音が次第に遠くなる。1時間50分歩いたところに命の泉がある。登山道から1・2分外れている。顔を洗って水を飲み、登山道に戻る。1人だからクマが心配だ。ときどき体を揺すり鈴の音を大きくする。尾根を登る。樹林が切れ山頂が見えるはずだが、ガスがかかって先が見えない。ガスが切れたら北カールが見える。ハイマツを越えると、お花畑だ。きれいだ、疲れも1人の不安も消える。赤、黄、紫、白、色とりどりの花が道の両側に咲き乱れている。

先に人の話し声が聞こえる。百山完登の2人だ。彼等は3時40分に登り始めたそう。先に誰か登っているかと尋ねると自分たちが先頭だという。追い越しては来たがまさか先頭になるとは。彼等は休むので私も休み、一緒に登る。大滝さんは今日完登するのに、誰か先に登っていれば別だが、彼等から1番に登ってもらおうと2人の後ろに続く。ガスで先が全く見えない。

いきなり大滝さんが「頂上だ、」と叫んだ。「おめでとう」と祝福の言葉を贈る。彼も「ありがとう」と礼をいう。ちょうど7時だ。風は強く、頂上にはいられない。5・6m下で休む。2人は私にコップがないかと尋ねる。何かと思ったら、2人は頂上で飲むためにビールを持って来た。私にも分けてくれるとのことだが、コップがないのでお椀を出し、2人から注いでもらう。こちらがお祝いをしてやらなければならないのに、3人で乾杯。百座、95座、私は年齢と同じ55座だ。

空を見上げると、雲が切れて薄日が差し始めている。戸蔭別岳がときどき顔を見せるが、寒さと強風で長居は無用と2人にビールの御礼に羊羹を渡し、一足先に下山する。途中、市根井先生と伊藤君に会い、お互い山旅の安全を交わしながら別れを告げる。

山荘に着いた。川の水は昨日より10cmくらい少ないと聞く。助かる。管理人に礼を言って徒渉する。きのうよりなるほど川の水は少ない。正午、登山口に着いた。翌日から予定通り雄阿寒、雌阿寒岳、斜里岳、羅臼岳、を登り、時間があったので、十勝岳にもう一度登って、戻って来た。

その後、登山で偶然にも大滝さん達2人とお会いしました。人との出会いという事においてもこ

なった。

ニコニコボックス： 8日現在累計 955,100円		
滝口恵介君	(三条南RC)	三日前に竹山君が二期目の当選をはたしうれしかった。こん後の活躍を期待したい。
梨木建夫君	統一地方選、もう中盤に入ってますが、無投票での当選もあり、今いち盛り上がりにかけてるようですが、一番身近な市長、市会議員の選挙が控えてますより良い人選を心掛けてすばらしい三条にいたしましょう、	
星野義男君	入会2週目、皆さんから一番活気ある北ロータリーで良かったねと言われうれしいです。親睦委員会メンバーから色々話を聞いて下され、又聞かしていただき感謝しております。	
馬場直次郎君	ボックスに協力して、	
大橋政雄君	ボックスに協力。	
青木省一君		
落合益夫君	BOXに協力。	
山崎勲君		
丸山勝君	ボックスに協力。	
樋口金占君	BOXに協力。	
安田貞夫君	久保さん御苦勞様です。	
岡田健君	久保さんの卓話楽しみにして居ります。	
柄沢憲司君	安田さんに協力。	
小林繁男君	卓話ごくろうさまです。がんばって下さい。	
佐藤啓策君	久保さん今日は卓話をして頂くことありがとうございます。高校の時、柔道部で五頭連峰の縦走に連れていってもらった事を思い出します。	
米山忠俊君	久保会長今日は卓話御苦勞様です。いそがしい中、有り難うございます。	
堀川正幸君	今日は楽しい山の話聞かせて下さるそうで、色々参考になりたいと思います。よろしく願ひします。	
梨本清一君	久保さん、お忙しいのにほんとうにありがとうございました。楽しみにしてりました。	
ロータリー財団：		
安田貞夫君	4月5日次女結婚しました。	
羽賀一夫君	梨木年度も残り少なくなりました。財団への協力宜しく願ひします。	

卓 話：

紹介 梨本清一会員

今日はいつになく出席率がいいようで講師は大変張り切って居られます。

久保さんは大変有名な方でいらっしゃるのですが皆さんご存じだと思います。しかし、こうやってお話をお聞きする機会はあまりないのではないかと思います、お忙しい中お願いして来て頂きました。山登りで凄いなと感じるのは出会いです。大自然との出会い、小さな可憐な花との出会い、それにもまして人との出会いだと思います。今回久保さんと登らん会の登山にご一緒させて頂き久保さんの素晴らしさを再発見しました。又、久保さんを支えるスタッフの素晴らしさを感じ是非皆さんに紹介したいと思い今回来て頂きました。来週は久保さんの幹事役を務めていらっしゃる、坂爪さんをお願いしています。2週に渡って「山シリーズ」です。よろしくお願いします。

「百名山 思い出の北海道 幌尻岳」 久保さんと登らん会 会長 久保富彦様



北海道には百名山が9つある。そのうちの3つは登った。大雪山は3回、十勝岳、羊蹄山は1回。今回は休日の都合で友達は行かれず、1人の山旅だった。

どうせ行くな仕事も暇だし、9泊10日の日程で幌尻岳、阿寒岳、斜里岳、羅臼岳を登ってしまおう新潟港をフェリーで出発。小樽港に着いてから下船するまで30分かかった。空は曇り高速自動車道、札幌道を札幌市に向かい大谷ICに降り国道274号線を日高山脈の最高峰幌尻岳（標高2052m）に向かう。この山には何年前に三条市の人が百座目に選んで完登されたような気がする。

途中、夕張市近くにきたころ、空は雨雲で暗くなり、雨が降り出してきた。困った。幌尻岳は額平川（ぬかびらがわ）を15回位徒渉しなければならず、増水時は十分注意するよう聞いている。走りながら予定を変更して、知床の羅臼岳まで走ろうかと迷う。そのうち雲も切れ、日が差し始めてきた。天気予報は日高地方は日中、日が差すこともあるという。よし、やっぱり幌尻だ。元気が出る。

日高町から国道237号線に入り、平取町振内（ふれない）まで行く。国道から分かれ、約35km入ったところに車止めのゲートがあり一般車はこまで、タクシーは取水ダムまで入っている。

着いた、林道の両側に8台の車が駐車していた。先客がいると思うと一案心だ。

コースタイムは登り幌尻山荘まで3時間50分、山荘から山頂まで4時間10分、合計8時間。下りは山荘まで3時間、山荘から登山口まで3時間30分、合計6時間30分。どうせ山荘泊まりだから急ぐことはない。持ってきた、ラーメンとモチを煮て、ビールを飲んで腹ごしらえ。9時30分登山開始。北海道はグマが多く出没するので注意を要する。鈴を付け、ラジオの高校野球を聞きながら歩く。来る前から心配していたのはまず熊だ。そして天気、交通事故だ。

ビールを飲んで少し気が大きくなっているが、やはり心配だ。「熊よ、おれは身長177cm、体重64kgであまり肉がない。食ってもうまくないぞ」と心でつぶやく。下山して来る人に出会うとほっとする。1時間40分歩いたところから徒渉が始まる。増水時以外は別に心配はいらないと本に書いてあった。徒渉地点に来たとき、先に1人の男性が歩いていた。彼の徒渉するのを見ながら後から続く。急流をももまでつかる流れで足をすくわれる。事前に平取町振内山岳会に電話を入れて聞いておいて助かった。地下足袋か運動靴を履いてくださいとアドバイスを受けていた。

パンツ1枚で渡る予定でいたが、ズボンをまくって渡り始めたら、深みにはまってぬれてしまった。3、4回徒渉したところで心洗いの滝にでる。そこに2人で三脚を立てて写真を撮っている人がいた。私の前を歩いていた彼が一息入れる。私は1人で先に行く気になれない。写真を撮っていた私と同じ年輩の人が少し休んでいったらと声をかけてくれた。もう1人は22、3歳の若者で「先生、先生」と呼んでいる。山岳部の先生と生徒かと思っていたが、私の前を歩いていた彼が「市根井先生ですか」と聞く。若者は「そうです」と答える。よく話を聞いてみると山岳写真家で函館市にお住まいの市根井孝悦先生（56）だそうだ。大雪山を撮ったら右に出る人はいないといわれている。山と溪谷社の写真集などに出品されている。大写真家だ。若者は伊藤君といい、彼も写真家を目指して先生のお供をしているそうだ。

先生と若者は出発だ。私も一緒に連れて行ってもらうことにする。水が冷たい。長く入ってられない。足がしびれる。2人に新潟から百名山を目指して登りに来たと話す。先生も4日間、新潟で高校生の写真展があり来ておられたとのこと。新潟は良いところと話されていた。やっと山荘が見えた。これで徒渉は終わりほっとする。

山荘には何人かの先客がいた。無人小屋で料金は千円。ぬれたズボンを天日に干し、昼食を取る。持ってきたビールを飲もうと思ったが、2人に連れてきてもらった御礼に差し上げたところ大変喜んでくださった。幌尻岳にこもって写真を撮るとのこと。食料は大切に計算して食べて居られた。

夕方になると平取町山岳会の小森会長が来られ、まきストーブをたき、発電機で明かりをつけてくださった。暇なときに山荘に来て管理をしておられるとのこと。それぞれ濡れた物を干している。山荘は2階建てで50人収容できる。私は2階に寝場所をとった。いつのまにか2階は満杯になり、私の隣に2人は席をとった。

小屋の中にいた人達がいろいろな話しをしているうちに、その1人は埼玉県浦和市の大滝さん（46）であすは日本百名山の百座を完登とのこと。もう1人は東京からで95座目。大学からの友人で2年前に1度来たが、雨で増水して断念。2回目の挑戦だそうだ。道外から登山者が多くそれぞれ百名山を目指しているらしい。先生がビールの御礼にとコーヒーを入れてくださった。そして名刺も。私はコーヒーは1ヶ月に1、2杯飲む程度、それも砂糖もミルクもたっぷり入れて。しかしこの時はどうしたことかブラックで飲んでしまった。